

推薦の序

～子どもの神経学マスターへのベストプラクティス～

子どもの神経診察は、成人とは違った面白さや深みがあります。その面白さとは、神経解剖や神経生理に裏打ちされた神経学の軸と、発達という小児特有の軸の二つの軸が交叉している点ではないかと思えます。特に乳幼児期の発達の様子はダイナミックで、発達段階を考慮した診察法があり、症候学があります。

また、子どもは成人のように診察に協力をしてくれませんので、神経診察の際にも子どもにあきさせないようにすばやく、かつ正確に評価する必要があります。乳幼児は、例えば不用意に腱反射を出そうとすれば怖がって泣いてしまうかもしれません。そもそも診察室に入ってくる前から泣いているかもしれません。その子の病態を判断するためのキーとなる所見をどうとるか、そしてその所見をどう解釈し鑑別診断を進めるか、本書にはそうした小児神経の診断学のエッセンスが詰まっています。

本書の画期的な点は、子どもの神経診察の技を磨くために、動画を提示してくれていることです。正常時の診察の様子もあれば、病的な症候を紹介する動画も含まれています。ご協力をいただいたお子さん、患者さんとご家族には御礼申し上げたいと思います。これまで紙のうえでは読者に伝えることが難しかった動きも、本書では読者には見ていただくことが可能になっており、通読される際だけでなく、実際の診療のなかで判断に迷った際の参考にも非常に有用だと思えます。

分担執筆された先生方は、小児神経学のエキスパートで、日ごろから学会の講習会などの場で若い先生方に熱く小児の神経学の面白さを説いている先生方ばかりです。皆さんが自分の得意としている分野での豊富な経験に基づいて記載されています。

本書を通じて筆者の先生方の熱い思いに触れていただき、ぜひ子どもの神経学の醍醐味を味わっていただきたいと願います。

2020年3月

日本小児神経学会理事長
東京大学医学部小児科
岡 明